



困難の中でも つながりを大切に

高等部3年 中村 美尋

私は一昨年度のフィリピン訪問プログラムに参加し、多くの子ども達と交流してきました。環境には恵まれなくても強く明るく生きる姿は今でも私の心の支えになっています。そして、昨年度もプログラムに参加することになり、子ども達との再会を楽しみにしていましたが、その願いが叶えられることはありませんでした。しかし、自粛期間が続く中で自分たちには何ができるのかを模索し、6月にはオンラインでのグローバルウィークを開催することができました。渡航は叶わなかったものの、フィリピンの子ども達について高等部生に伝えることのできた貴重な時間になりました。

10月には支援している子ども達にクリスマスカードを書く企画を行うなど、私たちなりの活動を行ってきました。世界中が困難に立ち向かう中でもフィリピンとの繋がりは続いています。そして、クリスマスを通じて私たち高等部生とフィリピンの子ども達に大きな喜びが与えられたことを感謝したいと思います。

災いを通して

高等部聖書科教諭 中西 理恵

今年はコロナ禍により多くのことを断念せざるを得ませんでした。特に3年生は学校行事や部活動の大会が中止になり、活動の締め括りと気持ちの区切りをどこでつけるのか悩み苦しんだことと思います。しかし一方で、この状況でできることは何だろうかと真剣に考え、乗り越えようとする一人一人の力強さをも目の当たりにしました。

中村さんが報告してくれたフィリピンとの繋がりもその一つです。それらの姿に励まされながら、私は聖書の言葉を思い出しました。すべての人を照らすためにお生まれになった御子イエスキリストは、目の見えない人を見つめながら、「神の業がこの人に現れるため」(ヨハネ9:2)だとおっしゃいました。

災いとしか思えない事柄をも通して、神は私たちに恵みを与えようといつも働きかけてくださいます。新型コロナウイルスに翻弄され、暗中模索する私たちの傍らに、いつも真の光がおられ、未来へ導いてくださることに信頼したいと思います。



フィリピン訪問先にて



グローバルウィーク
(フィリピンの子どもたちにカードを送る)